

大阪市立鯨江東小学校 平成 27 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】	
① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で健康に関する項目について、「(どちらかといえば) 当てはまる」と答える児童の割合を 80 %以上にする。 (カリキュラム改革関連)	
② 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を 70 %以上、「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的な回答の児童の割合を 90 %以上にする。 (カリキュラム改革関連)	B
③ 本年度の体力テストにおいて、特に課題のある長座体前屈の記録で前年度より上回る。 (カリキュラム改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【健康的な生活習慣】 学期に一度の健康週間の実施や「保健だより」などの活用を通して、ハンカチやティッシュを携帯し、手洗い・うがいをする習慣が身につくように指導する。 (カリキュラム改革関連)	
指標 ○健康週間がんばりカードによる実態調査で、肯定的な回答を年度末には 90 %以上にする。 ○月 1 回の清潔調べで、「できている」と答える児童の割合をどの学級も 70 %以上にする。	B
取組内容②【食育】 食事の大切さに关心が持てるよう、食に関する指導を計画的に行う。 (カリキュラム改革関連)	A
指標 ○栄養教諭による授業を各学年、年 2 回行う。 ○給食週間がんばりカードで「残さず食べた」と回答する児童の割合を 80 %以上にする。	
取組内容③【体育的活動の充実】 年間を通して柔軟性や持久力向上に向けた取り組みを行う。(ストレッチ・縄跳び・水泳・練習カードの活用など) (カリキュラム改革関連)	
指標 ○体育の授業や運動遊びで継続的な取り組みを全学年で行う。 ○「全国体力・運動能力、運動習慣調査」・「体力・運動能力調査」の結果 ・課題のある柔軟性を高めるための取り組みを全学年で行い、学期ごとに長座体前屈の記録をとり、前年度の大阪府平均より上回る。 ・20m シャトルランの記録を前年度の大阪府平均を上回る。 ・「体育の授業は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合が 90 %以上の現状を保つ。	B

取組内容④【体育的活動の充実】

体育の授業やP T A・地域と連携した水泳指導やスポーツ活動を推進することで、進んで体力づくりに取り組むことができるようとする。

(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)

指標 ○児童の水泳指導への積極的な参加

・夏季休業中の水泳指導に参加する児童を前年度と同程度に保つ。

○学校生活アンケート調査で「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を70%以上にする。

B

年度目標の進捗状況や経過達成状況の結果と分析

取組内容①【 健康的な生活習慣 】

保健だよりやがんばりカード、清潔調べなどを通して指導してきた結果、ハンカチ、ティッシュについては、健康週間での実態調査の結果は90%となり、目標を達成した。ただ、持っていない児童は固定化する傾向にあり、普段が十分とはまだ言えない。

取組内容②【 食育 】

日々の指導や給食がんばりカードなどの活用により、給食週間がんばりカードで「残さず食べた」と答えた児童の割合は、95%となり目標を達成した。また、栄養教諭による年間2回の指導や、給食だよりの実施により、食に対する指導を計画的に行うことができた。

取組内容③【 体育的活動の充実 】

体育学習の学習では、準備運動を取り入れたり、学習カードを活用したりして、継続的に取り組めるようにした。

「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の結果、体力や運動能力は、男女とも良好な結果がでている。とくに、20mシャトルランは、全国平均を大きく上回った。しかし、長座体前屈は、男女とも、大阪市・全国の平均値を下回った。また、意識調査では、否定的な回答が高い割合をしめたので、状況を把握することが必要である。

なお、指標にあげていた学期ごとの長座体前屈の記録については、実施できなかった。

取組内容④【 体育的活動の充実 】

夏季休業中のプール開放は、13日の実施で、のべ1054人、1日あたり約81人の児童が参加し、前年度とほぼ同程度を保つことができた。水泳クラブでもたくさんの児童が参加した。水泳クラブでは、大会に出ることで児童も意欲的に参加できた。

学校生活アンケートで「運動することが好き」の項目について肯定的な回答は87.5%であるが、指標とする「好き」と答える児童の割合は66%にとどまっている。学年差が大きく、高学年に否定的な回答が多い。また、「嫌い」と答える児童が約5%といいる。

来年度への改善点

- ① 健康週間だけでなく普段の生活の中でも継続して指導していくことが必要である。
- ② 日々の指導や、カードなどの工夫にもかかわらず、1年生においては給食週間がんばりカードで「給食を残さず食べた」と答える児童の割合が85%と他の学年と比べ十分とは言えないので、食に対する指導を継続することが必要である。
- ③ 体ほぐしや体つくりの運動など、柔軟性を養う運動について指導内容を工夫し、継続して指導を行うことが必要である。
- ④ 各学年の泳力目標に達しない児童が少しいるため、泳げない児童を集めて集中した指導を行うことが必要である。